

0 理念・目的・教育目標

進捗状況報告

広範で多様な学問領域に触れ、幅広い教養を備えるという教育目的と早期に高度な専門性を兼ね備えさせる準備をするという教育目的との整合性をはかる試みとして、まず、2008年度入学生から共通科目のうち、総合科目・入門科目の卒業必要単位数を8単位から6単位に変更し、それにより共通科目の卒業必要単位数は42単位から40単位となった。また、学科科目の卒業必要単位数は文化歴史学科と総合心理科学科は50単位から52単位に、文学言語学科は60単位から62単位に変更された。これらの改編については、総合科目等検討ワーキンググループでの検討後、カリキュラム委員会に上程され(2007年6月)、そこでの承認を経て教授会で懇談事項として挙げられた後、承認された(2007年7月)。次に、上記とは別に、2009年度以降入学生を対象とする学科科目のカリキュラム改編については、各専修に検討の依頼が教務主任からなされ、各専修から出された変更案についてカリキュラム委員会で検討・協議がなされた(2007年度～2008年4月)。今後は、その結果をカリキュラム委員会でまとめ、学部委員会での協議を経て、教授会にて最終的に承認を得る予定である(2008年6月)。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

低学年における専門教育の比重の置き方は、多彩なカリキュラム編成を持つ本学部の性質上、学科専修により濃淡はあるが、入試を2008年度より専修ごとの選抜方式に変更した文化歴史学科においては、これまで2年次に置かれていた専門講義科目の一部を1年次に移行するといった動きをとっている。また、総合科目の中にも幅広い教養と知見を獲得させるという目的に沿う形で、各学科が授業を提供するカテゴリーを設けて、学部の教育理念との整合性を図っている。

学内第三者評価

多様な分野からなる学部独特の困難があるものと想像されるが、2003年度に大幅な学科編成の変更が行われた後も細かな科目編成の変更が行われ、特に各専修の事情による専門科目の変更が、学部の教育理念に沿った総合科目のあり方とどのように整合性を保っているのかわかりにくい。具体的には、「早期に高度な専門性を兼ね備えさせる準備をする」というときの「早期に」という考え方は当初からすべての専修の目的にあったものなのだろうか。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
広範で多様な学問領域に触れ、幅広い教養を備えるという教育目的及び早期に高度な専門性を兼ね備えさせる準備をするという教育目的の下、組織改変とカリキュラム改革が進められており、2007年度においても、カリキュラムの調整が行われた。今後、このような一連の改革がどのように実を結んだかについて、実証、明示されることが期待される。